

平成22年度 岐阜県立瑞浪高等学校外部評価集計結果（生徒対象） 分析と対応

[分析1]

教育方針・学校経営、教職員、生徒指導項目の集計結果を総合的に分析すると、学校が高校生としてふさわしい「身だしなみ」や「モラル・マナー」を身につけさせるための「身だしなみ指導カード」や「授業規律指導カード」による指導については、生徒も理解し、その必要性を認めている。その一方、生徒一人一人を理解し、個性を認めたい。悩みや相談事にも親切に対応してほしいと考えていることがわかる。

[対応1]

- ・学校がどういう生徒を育て、どういう人間になってほしいと考えているのか生徒指導、学習指導等のそれぞれの立場から多くの機会をとらえ、説明していく必要がある。
- ・生徒への教育相談的働きかけ（「対話」「傾聴」）を積極的に行い、生徒理解を一層深め、生徒が安心して学校生活を送ることができるように支援する。

[分析2]

学習指導の5項目すべてで「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせた割合が5割をわっている。中学校と高校の授業内容・方法のギャップなどから高校の学習や学校生活に対して十分適応できていない現状があると考えられる。

[対応2]

旧態依然とした、一方的な講義形式の授業にならないように研究・工夫する必要がある。習熟度別学習などの少人数授業ではもちろんであるが、多人数を対象にした一斉学習においても、多様な生徒たちで構成される学級という「学習集団」の中で、一人一人の学習状況を理解・把握し、きめ細かな指導ができるように研修・研究を重ね、教員の授業力・資質を向上させる必要がある。